

地域社会との緊密な連携を築く

地域とともに子どもを育むPTA活動

小牧市立小木小学校PTA

1 はじめに

本校は、開校46年目を迎える、児童数305人、学級数14（特別支援学級2）の規模の小学校である。

校区は小牧市の西部に位置し、校区内には「宇都宮神社」をはじめとした多くの神社仏閣や小木古墳群などがあり、歴史ある町である。また、一級河川「合瀬川（木津用水）」や「巾下川」に囲まれ、田や畑、用水路などの自然も多く残る。一方、校区の北西部にはトラックターミナルがあり、地域の物流拠点となっている。

児童の住居の多くは、古くからの家が多く残る小木地区と、1970年代後半に整備された住宅地（とみづか・藤島団地地区）とに大きく分かれる。小木地区はもちろん、とみづか・藤島団地地区においても地域のつながりが強くその中で子どもたちは大切に育てられている。



【小牧市立小木小学校の全景】

2 研究への取組

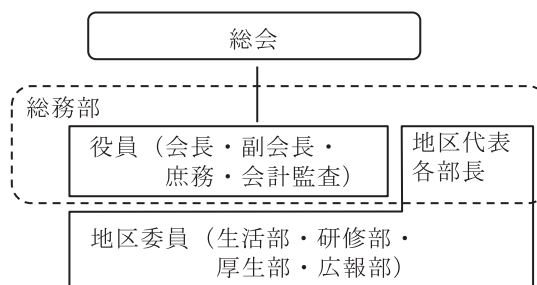
(1) 研究のねらい

本校PTAは、以前から運動会などの学校行事への協力や児童が楽しめる行事の企画・運営、児童が関わる地域行事への協力など、積極的に活動してきた。しかし、児童数の減少や夫婦共働き家庭の増加に伴ない、PTA活動への参加に負担を感じるという意見や委員の選出に苦労するという意見が多く聞かれるようになり、組織と活動の見直しに取り組んできた。また、令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、PTA活動の見直しが急務となった。

今年度は、コロナ禍の現状を受け、組織とPTA活動の見直しに継続して取り組むこととした。

(2) PTAの組織

会長、副会長の他、約30名の委員が各地区から選出され、「総務部」「生活部」「研修部」「厚生部」「広報部」のいずれかに所属し、活動を行っている。



【PTA組織の概要】

3 実践活動の概要

(1) P T A組織の見直し

① 従来のP T A役員選出方法

本校のP T A組織は、5地区から選出される役員と地区委員から成り立っている。役員は地区を三つのグループに分けたローテーションに基づいて選出している。しかし、各地区の児童数の変化により、役員や地区委員の選出が困難な地区が出てきた。

② P T A役員選出方法の変更案の概要

地区のローテーションによって役員を選出する良さを残し、会員・地区の負担を少しでも軽減するため、次のように変更した。

- 会計・書記を庶務にまとめることで、役員の人数を減らす。
- 5地区のローテーションとする。
- 役員を地区委員の人数に含め、実質的に地区委員数を減らす。
- 児童数の多い2地区から、生活部長を隔年で選出する。

役員ローテーション

役員	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8
会長		A	B	C	D	E	A
副会長		B	C	D	E	A	B
母親代表		C	D	E	A	B	C
庶務		D	E	A	B	C	D
生活部長		E	A	E	A	E	A

令和3年度 役員数

地区	A	B	C	D	E	計
児童数	73	36	120	29	46	304
委員数	7	4	12	3	5	31
(役員)		1	1	1	1	4
(地区委員)	7	3	11	2	4	27

【新たな役員選出方法】

(2) 例年の取組

本校のP T A活動では、あいさつ運動や通学路点検、資源回収、運動会への協力、P T A花壇の整備、P T A広報の発刊など、各部に分かれて活動を行っている。中でも、特徴的な活動として、本校児童が参加する「ひるの学校」と本校を含めた北里三校の児童生徒が参加する「この指とまれ」がある。

① ひるの学校

「ひるの学校」は、夏休みの出校日の午後に開催される。子どもたちの楽しむ姿を見たいと、教養部が中心になって企画し、全委員の手で運営される。準備は、4月の部会から始まり、7月には全委員でリハーサルを行う。



【令和元年度 ひるの学校】

令和元年度の内容は、「紙皿フリスビー」「輪ゴム鉄砲」「スライム作り」などで、子どもたちは体育館や各教室を回りいくつも体験することができた。この年の参加児童は113人（全校児童のおよそ1/3）。子どもたちは、P T A役員や入学前の幼児と共に活動し、助けたり助けられたりする経験を通して、地域でのつながりを感じることができたようであった。また、運営するP T A役員の笑顔も大変印象的であった。

② 北里三校での「この指とまれ」「ふれあい昼食会」

北里三校とは、本校と北里小・北里中学校のことで、本校と北里小学校の児童はすべて北里中学校へ進学するなど、大変に強いつながりがある。

このつながりを生かして、三校PTA主催で毎年11月に「この指とまれ」「ふれあい昼食会」を実施している。「この指とまれ」は、各PTAで5講座ずつ企画し、子どもは在籍校にかかわらず好きな講座に参加する。そこでは、小学1年生から中学3年生までが共に講座を楽しむ姿が見られる。「ふれあい昼食会」は、「この指とまれ」の講座修了後に北里中学校において行われる。児童生徒や保護者の他、地域住民も参加し、例年、およそ80食におよぶカレーがふるまわれる。

参加した子どもたちは、他の小・中学校の児童・生徒との交流を楽しむだけでなく、学校の枠を超えて保護者が協力する姿を見ることで地域のつながりを感じているようであった。

(3) 令和2年度の取組

昨年度のPTA活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって大きな影響を受け、ほとんどの活動が中止を余儀なくされた。PTA総会も一堂に会して開催することが困難であった。

このような状況下でも、総務部を中心に子どものために可能な活動はないか、何度も議論を行った。その中で、過去の行事を振り返り、右のような「小木小学校のPTA行事のあり方」を確認することができた。

- 子どもたちの笑顔のために行う。
- 会員の安全と安心が前提になる。
- 子ども・会員が自由意志で参加することができる。
- 子どもたちの手本となる活動である。

【小木小学校のPTA行事のあり方】

このような議論に基づき、コロナ禍の学校生活において、子どもたちが少しでも楽しめるように、学校の図書室にはなかった「仕掛け絵本」や「大型絵本」をプレゼントした。子どもたちは、新しい絵本に興味津々。感染対策をしながら、少人数で絵本を囲んで楽しむ姿が見られた。



【令和元年度 この指とまれ】



【令和元年度 ふれあい昼食会】



【絵本のプレゼント】

(4) 令和3年度の取組

「新しい学校の生活様式」と「小木小学校のPTA行事のあり方」を元に、少しでも多くの活動を行うために、以下のように取り組んできた。

① 役員会等の持ち方の見直し

「PTA総会」を紙面とWeb承認で実施することとした。このことにより、会員の参加率は約6割、また、およそ20名から文章で意見が寄せられた。これは、実際にPTA総会を開いたときの参加率と比べると大きな上昇である。

また、「全員会」を年度の初めと終わりの2回とし、それ以外は、各部で集まる「部会」を実施することとした。

② PTA行事等の見直し

資源回収では、不特定多数の家庭が出した資源に触れることに対する不安が委員から出されている。そこで、二つの対策を行い実施する予定である。こうすることで、急な中止や延期の際の連絡がスムーズに行える良さも得られる。

- ・参加対象をPTA会員に限定する
- ・資源回収物を家の前ではなく、集積場所まで持参する

【資源回収での感染対策】

- ・講座の内容を新型コロナ感染症のリスクの少ないものにする。
- ・講座の定員を減らし、付添いの保護者の人数を定員に加えるなど、会場内での密集を避ける工夫を行う。
- ・3校の交流を行わない。
- ・「ふれあい昼食会」は、レトルトカレーで実施する。

【「この指とまれ」「ふれあい昼食」の対策】

三校PTA行事「この指とまれ」「ふれあい昼食会」では、参加者を減らしたうえで三校PTA連絡会を実施した。そこでは、三校PTA行事の今後の継続のためにも、右のような感染症対策を実施した上で、「この指とまれ」「ふれあい昼食会」を行うこととなった。

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、部会を開いて話し合うことができなかったが、部長を中心に各委員が連絡を取り合い、各講座の内容や講師を決定することができた。

4 おわりに

子どもや学校を取り巻く環境が変化する中で、変化に対応できるように、PTA組織や行事の見直しに取り組んできた。新型コロナウイルス感染症の拡大もこの取組に大きな影響を与えた。このような状況下で、PTA役員の削減や全委員会の持ち方などを工夫し、委員の負担の軽減につなげることができた。それには、スマートホンやSNSなどICT活用が大変役に立ち、これらがPTA活動と相性が良いことが分かった。また、PTA行事の在り方を見つめ直せたことは大変有意義であった。

今後もこの状況は続くと思われるが、今回得たことを元に、子どもたちの笑顔のため、学校や地域と協力しPTA活動を継続、発展させていきたい。